

平成 28 年度 竜王小学校 学校関係者評価書

平成 29 年 2 月 17 日 (金)

竜王小学校学校関係者評価委員会作成

第 1 回 学校関係者評価委員会

実施日：平成 29 年 2 月 16 日 (木) 午後 3 時 30 分～午後 4 時 30 分

会 場：竜王小学校 会議室

参加者：学校関係者評価委員

学校評議員 (塚川美恵 篠原美代子 安部伸江 碓井和幸 小尾平明)

PTA 本会役員 (小尾公夫 藤恵子)

学校側

校長 (奥山賢一) 教頭 (近藤健一) 主幹 (増坪広夫) 教諭 (平沼公香)

I 学校側から提案された内容

学校評価実施結果の概要について

- ・教職員自己評価の調査結果について
- ・児童アンケート、保護者アンケートの調査結果について
- ・今年度の評価結果と過去 2 年間との比較と改善状況について (自己評価書)
- ・今年度の学校評価結果から見えた課題と改善策

II 協議された主な内容

① 学校教育目標・学校経営・学校運営について

肯定的な意見が多く、学校全体の教育活動が良好であったことを示した。職場の福利厚生や健康管理の面と、PDCA サイクルを生かした教育活動では改善が見られた。学校教育目標が学校経営方針を踏まえたものになっているという意識化がなされ、その具現化に向けて全校体制で児童の育成に取り組んでいる様子がうかがえる。

② 学習指導について

肯定的な意見が多く、意欲的に学び学校が楽しいと感じている児童の姿から、概ね満足な学習指導への取り組みが行われていると言える。評価を明確にした授業では改善が見られた。学習規律の徹底を図ることで、学習指導の充実度が向上しているが、個に配慮した授業を充実させていくことや、家庭学習の時間と質を向上させていくことが今後の課題である。

③ 生徒指導について

教職員が学習規律を揃えた「竜の子 15 箇条」を意識した指導を行うことで、児童の問題行動が減り生活が落ち着くなど成果を上げてきている。また、児童との信頼関係も年々向上し、今後は全ての児童が相談できる先生がいる学校を目指し、細かく児童の様子を見取りながらきめ細かな配慮をして児童の健全育成に繋げたい。また家庭とも連携し、きまりや約束を守るように地域ぐるみで指導していくことが望まれる。

④ 地域との連携について

学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合い結果が学校教育に生かされていると感じている教職員が増えてきた。今後も家庭や地域に開かれ、信頼される学校づくりを推進し、地域と連携した教育活動を行っていく。

⑤ 学校の特色について

授業時数もよく確保され、ICT 機器の活用や「竜の子 15 箇条」など特色ある取り組みの成果が、学力の向上や落ち着いた生活習慣などに繋がっている。また、挨拶活動も年々、意識が向上し、充実した学校生活に繋がってきている。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

今回の調査結果から昨年・一昨年ともに、肯定的な意見(A:そう思う B:ややそう思う)がすべての項目で高い数値を示し、学校が良好な状況であるとともに、学校が児童に対して様々な取り組みをして改善を図っていることが分かった。校長の強いリーダーシップの下、チーム学校として全校体制で力を合わせて学校運営に取り組んでいることが感じられる。今後も引き続き、児童のために頑張ってもらいたい。

II 特徴

○学習規律、生活規律について

- ・学習規律を揃え「竜の子15箇条」の取り組みのように、全職員が共通理解を図ることで指導の一貫性が図られ、落ち着いた生活習慣が醸成され大きな成果が見られた。
- ・児童の大部分が「学校は楽しい」と肯定的な意見が多いが、少数ではあるが否定的な意見を持つ児童もいる。一人一人を細かく見取り、きめ細かな指導を今後も継続して欲しい。
- ・学校や教師によって宿題の量が違うが、宿題の量を多くすれば、家庭での学習時間も増えるが、それを見取る教師や保護者の負担感も増え、多忙化につながる恐れもある。今後は宿題の質を高め、やり方や時間配分などをさらに工夫していただきたい。

○下校の安全について

- ・児童の安全に関しては「高齢者と子どもの帰り道ふれあい事業」で地域の方に安全指導に協力して頂いているが、高齢化が進み人数の確保が大変である。長寿会だけでなく自治会長を中心に若い世代にも協力を要請していただきたい。

○教育環境について

- ・夏休みのラジオ体操については、最後にはたくさん人が来るが期間も1週間と短く、地域のふれあいの場として活用を考えたい。また、地域の遊び場が少なく、学校の校庭が遊びの中心となるが、甲斐市の小中で統一したルールで開放することは良い方法だと思う。
- ・職場の福利厚生と健康管理では、仕事に熱心な先生も多く帰りの時間が遅い傾向にある。周りが仕事をしていて早く帰って悪いと思わず、管理職が声かけをするとともに、帰れる時には帰れる雰囲気づくりを今後も心がけていただきたい。

○保護者や地域との関わりについて

- ・児童、保護者、教職員の三者で、意識の差が学校評価からも分かった。昔に比べて悪戯の質も変わり指導が難しかったように感じる。家庭生活を見直し、学校の様子を話題にするなどコミュニケーションを深め、保護者が児童と一緒に遊び、様々な機会でお話しすることが大切であると感じる。また、学校が児童のために様々な取り組みをして頑張っている様子がわかるように地域にも周知してほしい。

III 今後の課題として意識されたいこと

- ・学校評価は、昨年度までは年2回の実施が今年度からは年1回の実施となった。昨年度と一昨年度の結果を踏まえながら検討を行ったが、学校の現状や改善の成果、今後の新たな課題などがよくわかる評価書となっている。今後も経年変化を分析し、学校教育の改善の柱となるような学校評価としていきたい。
- ・この学校関係者評価委員会で出された話題を、職員会議や協力者会議などにも広げ、地域と連携した「開かれた学校」を推進し、更に教育活動を推進していただきたい。

※特記事項 なし

記載責任者（竜王小学校 学校関係者評価委員） 氏名：小尾平明

